



時代区分

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 各々の時代像

日本の時代区分においては、古代や中世、また弥生時代や平安時代などに分けて述べるが行われています。ここではまず、古代や中世といった大きな時代区分について、各々の時代の概要と、こうした歴史区分のあり方について見ていきましょう。

1) 原始(旧石器、縄文、弥生、古墳時代)

日本の歴史において、7世紀より前は原始時代に相当し、旧石器時代から古墳時代が該当します。旧石器時代には、人々は狩猟・採集をしながら移動を繰り返していましたが、縄文時代には定住をするようになり、弥生時代には稲作を行い、ムラがつくられました。やがて、ムラはより大規模なクニとなり、さらに、巨大な古墳を築く豪族も出現します。そして、近畿の大和朝廷が、多くの豪族を従属させ、統一国家を作り始めます。

なお原始の一部を古代とする考え方もあります。

2) 古代

7世紀頃から、西暦1100年頃までは古代と区分され、飛鳥時代から奈良・平安時代へと至ります。7世紀頃、関東から北部九州まで掌握した朝廷は、中央集権的な体制作りをはじめ、奈良時代直前には中国に倣った律令制を導入し、全国の土地と人民を直接把握する制度が成立しました。しかし平安時代以降、この制度は次第に形骸化していきます。

なお、古代の始まりについては、大和朝廷による統一政権ができた5世紀とする説や、古墳時代の始まりである3世紀とする説もあります。

3) 中世

西暦1100年頃から1600年頃までは中世と呼ばれ、主に鎌倉時代、室町時代が該当します。この時代は朝廷による支配力が衰える一方、荘園と呼ばれる私有地が広がり、やがてこの荘園を管理していた武士たちが武力を背景に政権を握るようになりました。こうして1185年以降、武士の政権である鎌倉幕府、室町幕府が東北から九州までを掌握します。しかし、15世紀以降には室町幕府の支配力も衰え、応仁の乱を契機に日本は戦国時代に入りました。

日本史の時代区分

西暦	時代区分	時代名	北海道	沖縄
BC10000	(原始)	旧石器時代	旧石器時代	旧石器時代
BC8000		縄文時代	縄文時代	
BC6000				
BC1000	弥生時代			
BC500				
0				
100	古代	古墳時代	続縄文時代	貝塚時代
200				
300		飛鳥時代		
400				
500				
600	(6世紀半ば)			
700	(710年)			
800	奈良時代	(794年)		
900	中世	平安時代	鎌倉時代	
1000				
1100				
1200				
1300	鎌倉時代			
1400	(1333年)	(南北朝時代)		
1500	室町時代	アイヌ文化時代	三山時代	第一尚氏王朝
1600	(戦国時代)	(1573年)	第二尚氏王朝	
1600	安土桃山時代	(1603年)		
1700	近世	江戸時代	(松前藩支配)	(薩摩藩支配)
1800				
1900	近代	(1868年)	明治時代	
2000			大正時代	
2000			昭和時代	米軍統治
2000	(現代)		平成時代	

4) 近世

近世は16世紀末から幕末までの時期で、ほぼ江戸時代と一致します。戦国末期、東北から九州は再び統一され、1603年には江戸幕府が成立しました。

この時期は太平の世が続き、安定した社会の下で経済が成長して多彩な文化が開花する一方、身分制度や社会秩序との間に広がる矛盾が、次第に幕末の動乱を招いていきます。また、近世にはそれまで本土とは別の社会を形成していた北海道と沖縄にも、本土の支配が及ぶようになりました。

5) 近代・現代

1853年のペリー来航、または1868年の明治維新後は近代と呼ばれ、明治、大正、昭和を経て平成に至るまでの時代が含まれます。維新後、新たに天皇中心の政府が成立し、近代的な社会や生活が導入される一方、海外の権益をめぐる度々戦争が起きた時代でもありました。

なお近代をさらに細かく考える場合、1945年の終戦以後、民主国家、平和国家として歩んだ時代を現代として分けることもあります。

2 時代区分とは

こうした時代区分は明治維新後、西洋史の区分法を日本史に当てはめて考え出されたものです。

16世紀、西洋ではそれまでのキリスト教の価値観から人々を解放し、遠くギリシャ・ローマ文化の復興を目指すルネサンス運動がおきました。このとき、運動に携わった人々はこれから始まる新しい時代を「近代」とし、彼らが模範とするギリシャ・ローマ時代を「古代」、そしてその間にあるキリスト教中心の時代を「中世」と呼ぶこととしたのです。こうして、古代→中世→近代という西洋史の3区分法が確立され、この区分法が明治維新後に、日本史の公家政権→武家政権→近代国家という考え方にも応用されました。

その後、近世が西洋史では近代から、日本史では中世から分離して、古代・中世・近世・近代という4区分法が生まれ、さらに原始と現代が加わって、現在に至っています。

3 時代名

さて、日本史の時代区分ではこの原始～近代の区分の他に、弥生時代や江戸時代、明治時代といった、より細かい時代名と呼ばれる区分もあります。これは、原始時代ならば使用される石器・土器の型式、それ以降は都の場所や国内の政治状況を時代名とするものです。

具体的には、旧石器時代、縄文時代、弥生時代はそれぞれ石器、縄文土器、弥生土器が使われていたことから名付けられ、古墳時代はその名の通り各地で古墳が作られていた時代です。一方、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代、江戸時代は、当時の政治の中心地の地名から名付けられました。また南北朝時代と戦国時代は、朝廷の分裂など当時の国内政治の状況によって命名されています。

こうした時代の区切り方は、江戸時代の歴史研究から生まれました。そして近代の土器研究によって縄文時代や弥生時代の存在が認められるようになり、さらに戦後の岩宿遺跡の発掘で旧石器時代が加えられ、現在に至っています。

なお近代については、現在のところ元号をそのまま時代名とするのが一般的です。

4 北海道と沖縄の時代

こうした縄文時代や室町時代などの時代名は、広く日本全国に通じるようにも見えます。しかし、日本にはここまで紹介した歴史とは異なる歩みを展開した地域として、北海道と沖縄があります。

北海道では、縄文時代の後、続縄文時代や擦文時代など、現地の先住民の人々が作り上げた時代がありました。その後江戸時代には、松前藩の支配下に置かれるようになっていきます。

沖縄は、旧石器時代の後に貝塚時代やグスク時代を経て独立王朝を樹立した後、江戸時代に薩摩藩の支配に組み込まれました。さらに近代でも日本から切り離された米軍統治の時代があるなど、本土の歴史とは別の時代と呼ばれています。

(学芸調査室 渡部邦昭)



編集

発行：平成23年3月31日（平成29年3月22日改訂）

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>